

活動報告

団体名	くまもと友救の会
活動名	災害ごみの撤去と被災家屋の応急対応、重機による農地の応急的復旧活動
活動期間	2020年7月8日～2021年1月31日
活動の成果	<p>災害ゴミは2トンドンプに積載し、活動期間中で延べ2013台分の搬出を行いました。また、数ある被災家屋修繕過程の中から泥出しのみを実施していた災害VCと調整し、受け付け範囲を拡大して、災害VCで対応できる部分とできない部分を交互に作業分担することで支援の漏れを軽減しました。この作業分担モデルで我々が作業を担当した家屋は延べ36件となり、重機案件などその他の相談案件も含めると50件以上のニーズに災害ボランティアセンター経由で対応しました。災害ゴミの仮置場の開設や応急修理制度における家屋修繕費用の一部補助などは行政による「公助」ですが、被災者自ら実施できる片付け作業には限りがあり、災害VCの作業も限定的なままでは「自助」と「公助」に大きな開きが生じます。そこで我々は「自助」と「公助」をつなぐ役割としての「共助」という働きにフォーカスしました。そうすることで被災住民ができる分別や片付け作業の延長線上にある搬出作業や内部解体作業を「共助」として担い、災害ゴミの撤去や内部解体ゴミの搬出を行い、応急修理制度や行政による災害ゴミ処分という「公助」へつなぐことができました。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>大規模な災害が続出する近年、熊本県では熊本地震の爪痕も未だ残る中、甚大な被害をもたらした豪雨災害でした。我々は熊本地震以降、九州各県で度々発生した災害に支援活動を展開してきました。コロナ禍という中、支援者の皆様も思うように被災地への支援を実施できない中、寄付という形で善意を託して下さいました。現地の支援団体として責任を強く感じます。</p> <p>皆様から託されたご支援のお気持ちは、我々の支援活動という形をもって被災地域の復旧復興に具体的な形や数値に現れるように変換し、実施するよう心掛けてきました。被災地の支援団体として息の長い活動を今後も続けていきますが、これからも被災住民の自助と行政による「公助」そして皆様の「一念」をつなぐ「共助」を心掛けて活動を展開していきます。この度は令和2年7月豪雨災害の被災地へご支援を頂き、誠にありがとうございます。</p>

(活動のようす)

